

第39回東京モーターショー出展報告

野賀 丈弘 (ITS 統括研究部調査役)

はじめに

2005年10月21日(金)から11月6日(日)、延べ17日間の過去最長期間にわたり、千葉県・幕張メッセ(日本コンベンションセンター)国際展示会場の第1～8ホール、北ホール、イベントホールおよび国際会議場において、「第39回東京モーターショー——乗用車・二輪車——(2005)」が開催されました。1954年に日比谷公園で産声を上げた東京モーターショーも今回で50周年を迎え、今期間中の累計来場者数も151万2千人と、1997年以来の150万人を超す大盛況でした。

今回のショーテーマは「“Driving Tomorrow!” from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。」と題して、内外のメーカー各社からワールドプレミア79台、ジャパンプレミア120台の出展をはじめ、イベントホールでの50周年特別展示やカロッツェリア展示、海浜幕張公園でのクリーンエネルギー車同乗試乗会、国際会議場での各種シンポジウム等、老若男女、アマチュアからプロまで楽しめる盛りだくさんの内容でした。

なお、2004年開催の商用車ショーに引き続き、乗用車・二輪車としては最後の開催となりましたが、次回2007年からは、乗用車・二輪車・商用車の「新総合ショー」として以後隔年開催されることとなります。

特別出展の概要

当機構では、今回のモーターショーにおいて、国土交通省が進められている「2007年から始まる本格的なITS社会の実現に向けたスマートウェイの取り組み」について広く紹介することを目的に特別出展いたしました。概要については以下の通りです。

出展場所：国際展示会場2F中央モール
入口横 特別出展ブース

出展規模：40㎡(10m×4m)

出展テーマ：「ITSセカンドステージへ、
2007年スマートなモビリティ社会が実現します」

出展内容：

・ブース中央右寄りに、ITS車載器を模

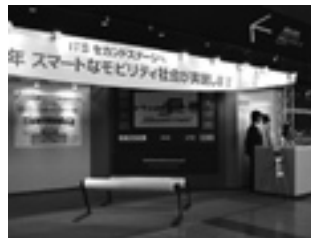
した造形を配置し、PDP大画面(65型)上に、「次世代道路サービスの世界」をビデオ上映。

・「日本のスマートウェイ、ITSの現状紹介」：カーナビ、VICS、ETCの急速な普及により渋滞が削減され、快適ドライブが実現されてきたこと、および、バスロケーションシステム、スマートインターチェンジ、自律移動支援等のサービスが実用化されつつあることを紹介。

・「2007年から始まる3つのサービス」：①道路上における情報提供サービス(新VICS)、②道の駅等情報提供サービス、③公共駐車場決済サービス、の詳細を紹介するとともに、これらの新サービスが一つのITS車載器で利用可能となることを紹介。

・パネル展示により、「多様なITSサービスを統合的に受けられる」「スマートウェイのゴール」に向けた「官民共同の取り

当機構の特別出品ブース



組み」や、「2007年からITS車載器で新サービスがスタート」すること、また「普及が進むITS」「減らそうCO₂」と題して、ETC および高速道路の利用促進により環境改善が可能なことをアピール。

またブースにおいて、道路局、関連財団、首都高速道路等で発行しているITS関連資料、パンフレット等、計11種、総計3万部以上を希望者に配布するとともに、アンケートを実施し、有効回答約1,500枚を回収することができました。その結果、回答者の①カーナビ自己利用率は57%に達し、ETC（47%）、VICS（43%）利用も半数近いこと、②スマートIC利用率は11%でしたが、非利用者のスマートIC利用意向は約8割に達すること、③ITS認知度は61%、スマートIC認知度は42%と関心が高いこと、④ITSサービスによって道路状



当機構の特別出品ブース

況に関する情報と運転支援になる情報が得られること等に期待が集まっており、ITSによる決済機能も注目されていること、⑤ITSの情報を得るにはインターネット利用が62%（特に国土交通省道

路局ITSホームページへのアクセスが49%）と半数に上ること等が分かりました。

（のが・たけひろ）